

日刊 動労千葉

79.2.5

No. 25

国鉄動力車労働組合

千葉地方本部

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八(九)(公衆)三三三二七二〇七

1.31「交流」の基盤を破壊した中央本部!

中央本部との1.31「交流会議」は実現しなかった。このことのできる責任は「話し合える基盤」を作ろうとしなかった——中央本部にある。

オ二に、5日間で大会代議員という特定の組合員を80名余も動員しようとするこの無謀さと理由もなく前泊させようとする異常さ。

オ三に、「全国大会代議員」から「地本大会代議員」へ、当該地本との何の相談もないまま突然拡大することの不明朗さ。

オ三に、責任ある中央本部の書記長、組織部長が公式の機内の中で公然としかも一方的に、現に存在し機能している千葉地本を認めない発言をするということ。

オ四に、関東青年部発才11号に端的に見られる数々の規約・規則無視、機内運営ルール無視が公然と行われ千葉地本三役・組織部長が一月十二日直接本部三役・組織部長に説明を求めたことへの回答が全くなされていない等、本部がそれを黙認しているという現状、等々である。

革マル派のセクソ的引きまわりの典型... 指令なき集団

ゆいゆいは全国からの知らせにより、青年部一部活動家がいつれかへ集結しつつあるとの情報を得、調査した結果、本部・林委員長も知らない、指令なき集団約三〇〇名が、水上「ニュー」松の井ホテルに集結していることを確認した。

千葉地本全組合員・家族は「刀を背にかくして手招き」するがごときダマシ討ち的やり方に怒り、自らのとった行動に自信と確信をますます深めている。この指令なき集団の動きこそ、革マル派のセクソ的引きまわりの典型である。いったい「ニュー」松の井に結集した三〇〇名は、動労のいかなる指令のもとに行動したのか。

最も規約・規則、機内決定を遵守しなければならぬ最高指導機関が、一方を野放しにして他方を裁くがごときことを

したら組織は成り立ち得ない。中央本部は、すみやかに、指令なき集団の真実を明らかにし、「交流」のできる、背景を作るべきである。

階級的動労運動 再生のために

千葉地本のさまざまな努力と誠意をみこむ中央本部の対応の中で千葉地本オ三回拡大支部代表者会議(各支部長と地本大会代議員55名出席)は、討議の結果、現状では「交流」を行う基盤はないことを確認し、その旨を本部へ申し入れることを決定した。地本はこの確認に踏まえ、一月三〇日、「組織26号」をもって本部への申し入れを提出し(オ付「日刊」オ二号参照)同時に、奥川委員長から本部・林委員長にその旨伝達した。

中央本部は、この間、千葉地本に対しては厳しく、組織指導しなから、千葉地本からの説明要請には応えず、一部反動分子のやりたい放題の規約・規則無視、機内運営ルール無視を黙認してきてい

このような悪弊を今こそ改め、階級的動労運動再生のために千葉地本からの説明要請「組織26号」に正しく答えるべきである。どうでなければ、動労は労仲組合ではなくなる。

今週、地本防衛担当

月日	曜日	担当支部
2月5日	月	幕張・千代田
6	火	蘇我・館山
7	水	佐倉・勝浦
8	木	銚子・成田
9	金	新小岩・津田沼
10	土	幕張・千代田
11	日	木更津・館山
12	月	佐倉・勝浦

俺たちの職場は俺たちの力で守る!

